

# 天売島ノネコ対策への合意形成に関する研究

池田 透 [北海道大学大学院文学研究科/助教授]  
立澤 史郎 [北海道大学大学院文学研究科/助手]  
寺沢 孝毅 [天売島海鳥保護対策委員会/事務局長]  
西澤 有紀子 [北海道大学文学部/学生]  
小倉 剛 [琉球大学農学部生産環境学科/助教授]

## 背景・目的

日本の外来種対策においては一般市民や地域住民との合意形成が充分とはいえず、駆除に向けては多くの問題が残されている。特に生物多様性への影響が大きいと予測される移入哺乳類では、駆除対策に関して動物愛護の立場からの感情的反発も根強く残っており、こうした社会的状況を考慮せずして外来哺乳類対策の円滑な実施は不可能である。そこで本研究では、飼養動物由来の外来哺乳類であって人間との関係が密であり、かつ地域生態系への悪影響が危惧されている天売島のノネコ問題を対象として、地域住民や一般道民の合意形成や、管理対策を円滑に進めるための体制づくりに必要な条件の検討を試みた。

## 内容・方法

対象動物としてはノネコを取り扱う。ネコは古くから人間のペットとして飼養され、人間との感情的つながりが最も強く、ノネコによる地域の生物多様性に与える影響が問題となりながらも駆除対策に対する感情的な反発のためになかなか対策には手のつけられなかった厄介な存在となっている。

調査地域は、世界最大級の海鳥の繁殖地(天然記念物)を有し、近年ノネコの捕食による海鳥への影響が危惧され、基幹産業である観光への影響も心配されている天売島とした。

研究内容は、従来蓄積されてきた天売島におけるノネコの生息状況や海鳥への影響を再整理することに加えて、ノネコ被害地域の住民意識調査を実施し、地域におけるネコの適正飼育方法の確立、及び円滑な外来種対策の前提となる社会的体制づくりに関する基盤的研究を実施し、最終的には有効なノネコ管理手法を検討した。具体的には、天売島民を対象としたノネコ対策に関する地域住民意識アンケート調査を実施し、ノネコ駆除対策及び飼養ネコ管理対策による意見を分析し、効果的ノネコ対策構築のための基礎的資料の整理を試みた。

## 結果・成果

天売島のノネコ対策は、これまで海鳥保護を目的として行われてきた。しかし、ノネコがウトウ・ウミネコを捕食していることは事実として確認されているものの、ウトウにおいては生息数の減少は確認されてはならず、ウミネコにおいてもノネコが生息数減少にどれだけ影響を与えているかについては明らかにはされていない。

また、島民においては行政サイドからの一方的な上意下達

方式によるノネコ対策に対する不満が聞かれた。さらに、ウミガラスの生息数減少をめぐる漁民と海鳥保護の立場との対立構造から、島民の中には海鳥が関係する問題には拒否反応を示すものもあり、ノネコ対策への合意形成の在り方に課題が残っていることが明らかとなった。

しかし一方で、島民アンケートの結果、ノネコ問題自体に関しては島民の関心は非常に高く、多くの島民にノネコの存在が問題視され、ノネコの除去にも賛成する割合も高いことが明らかとなった。島民の中にもノネコの存在が問題であり、解決すべき問題であるという意識は強い。ただし、多くの島民にとってのノネコ問題の焦点は畑や庭を荒らすとか魚を盗むといった生活被害への苦情が多く、海鳥の減少可能性などの生態系保全に関わる問題意識は低かった。この点からも、従来のノネコ対策の目的と実際に島民が望むノネコ対策の目的に大きな隔りがあることが明らかとなった。また、ネコ飼育者と非飼育者ではノネコ問題に対する意識に大きな差がみられ、ネコ飼育者においては自分が飼育しているネコ以外のネコ全般にも愛情を注いでいることが推測され、このことがノネコの管理をいっそう困難にしていることが予想される。

ノネコが海鳥を捕食していること自体は、現時点で生息数の減少等がみられてはいなくとも、在来生物の保全という視点からは見逃されるべき問題ではない。また、海鳥保護と島民の生活被害の減少に向けては、ノネコの存在しない状況を望むという目的において一致するものであり、今後のノネコ対策の在り方として、ノネコの生息状況・ノネコによる海鳥の捕食状況・生活被害の実態などの把握を進めるとともに、行政や関連自然保護団体から島民に一方的に情報が流れるのではなく、島民同士が積極的にノネコ問題に意見を述べられる状況を作り上げ、島民参加のノネコ対策を作り上げていくことが重要である。

また、ノネコ発生の根本原因となる飼育ネコ管理については、沖縄県国頭村安田地区での飼育ネコへのマイクロチップ導入による成功例などを参考に、地域住民による徹底した話し合いのもとに、ネコの適正飼養方法について明確なルール作りなどが必要と考える。

## 今後の展望

これまでの天売島のノネコ対策は、増加したノネコへの対応のみに意識が集中し、ノネコを生み出す原因や人間社会への対応が十分ではなかったと考えられ、このこともノネコ対策事業が円滑に行われてこなかった原因の一つと推察される。今後は、地域住民を交えた長期的展望に立つ対策の構築が期待される。

一般に外来種管理においては、対象種の管理のみに目が向けられる傾向があるが、管理対策を実施するためには社会的状況を加味した総合的対策の構築が必要であり、今後も天売島におけるノネコ対策への合意形成に向けて、ノネコの生態調査や島民の意識変容について調査を継続したいと考えている。